令和４年度　宇美町立宇美南中学校　学校評価（最終評価）

宇美町立宇美南中学校

志をもって学び、心豊かでたくましい宇美の子ども

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
ふるさと宇美を愛し、志をもって、たくましく未来を生きる生徒の育成	「自立・自律に向けた自己指導能力の育成」　～「もう一人の自分」に気づく・から見つめる・が育てる～

方策	項目	中項目	小項目(教育活動・内容)	一次	二次	最終	一次	二次	最終	総合評価	成果○と課題●	学校運営協議会委員の意見【評価】
方策１	１　磨き合う集団づくり	(1)人権意識の醸成【思い合う言語】	①規律の徹底(うみしぐさ：あいさつ、黙働掃除、時間)	3.38	3.27	3.27	3.42	3.38	3.38	A	○①規律の徹底については、共通理解の基に指導できた。生徒会を中心に取り組みができた。 ②生徒会の取り組みで、スマイルフラワーチャレンジが実地され、他者を思い合う実践ができた。 ④ゆうあい学級授業が時間割に設定されており、個別の支援を行うための環境が整備されている。 ④個々の生徒の頑張りを認め、確認し、自尊感情が上がるような承認の声かけを心がけた。 ④教育相談会議や二者面談などで生徒の困り感を把握し、指導にあたってある。 ●①規律については細かな部分での徹底が課題である。 ②言語環境づくりは学年任せになっている。また、実践する時間の確保が困難である。 ③日常生活で生徒の言語が乱れてきている。継続して指導していく必要がある。師弟同行で教師から言葉に気をつける必要がある。 ③道徳教育を学年ローテーションで実施しているが、専門的な研修を受けたい。 ③交流学級と同じ内容で授業を行うには、個人差があるなど、進捗状況に差が出る。 ③時間割の変更が頻繁にあり、ゆうあい学級での時間割確認が困難になっている。	○　様々な活動にチーム制を取り入れてあり、協働性、協調性が自然を育つように仕組まれています。 ○　自己評価が下がっている箇所もありますが、高い水準を維持できています。Q-U調査結果の活用については、他の県教委の資料でも具体例が乏しい現状なので、河村茂雄先生の書籍、高知県教委の資料等を参照すると良いと考えます。 ○　言葉は他人を励ますこともあれば、傷つけることもあります。そのことを十分に理解させてください。ゆうあい学級との交流は大切なことだと思います。 ●　今後60年の人生設計の視点に立てば、集団よりも個の成長を促すことが重要だと考えます。 ●　不登校生徒が前年度よりも減少するよう尽力ください。
			②他者を思い合う言語環境づくりの実践	3.13	3.20	3.20						
			③道徳教育の日常化を図る指導機会の充実	3.50	3.33	3.33						
			④特別支援教育の視点に基づく生徒理解及び個々の良さを発揮する個別支援の充実	3.56	3.60	3.60						
		(2)人間関係形成力の育成【認め合う関係】	⑤Q-U調査を活用した積極的生徒指導の教科指導・学級指導の実践	3.31	3.33	3.33					○⑤QUの結果をもとに学年ごとに支援が必要な生徒への対応を学年で協議・共有し、今後の学級経営について考えることができた。個別対応や生徒指導に生かすことができた。 ⑥体育会や文化発表会では、生徒会役員や3年生のリーダーシップで異年齢活動が充実している。 ●⑤日常の学校生活の中でQUを用いた支援が実践されているケースは少なく思える。 ⑤QUの活用の目的をシャープにして手立てを分かりやすくする。 ⑥教員間の連携があまり図れていなかった。	
			⑥生徒会チーム制による異年齢活動での主体性の発揮	3.63	3.53	3.53						
方策２	２　学び合う集団づくり	(1)学びに向かう力の育成【鍛え合う思考】	①南中学びスタイル(対話活動・ふり返り・家庭学習等)の習得に向けた取組の工夫	2.94	3.40	3.40	3.14	3.20	3.23	A	○①研究構想に基づいてふり返りを行い、既習内容と本時をつなぎ、生徒の問題解決を支援できた。 ②ふり返りや課題を通じて「書くこと」を習慣化できた。 ●①家庭学習に向けた学校全体での取り組みが必要。自学ノートの取組を見直すべきだと考える。 ②試写課題の取組が、実践できていない。教員がチェックする時間確保が課題である。 ③南中生徒会学力向上プランを意識して実施していない。やってきたことが重なった。様々な取組とのつながりが希薄になっている。廃止もしくは改変する必要がある。	●　南中生徒会学力向上プランだけ自己評価が低いのが気になります。生徒会が新体制となったようですので、学力向上推進担当者と生徒会役員の協議に、指導主事、塾講師等の外部を加えてみることも検討してください。授業との連動については、授業に合わせるのか、授業を合わせるのか共通理解が必要です。学力向上にかける教科担任の熱意を生徒に伝える必要があります。 ●　対話活動はとても大切です。本日の授業公開の学習指導にあらわれていませんでした学びがないと学力向上がつながらない、交流活動を取り入れるのは、学習内容を獲得する場面、互いの成果を伝え合う場面、困り感を共有・解決する場面です。それぞれに価値がありますが、同時に「個で成す」経験が減ります。個→集団の視点ではなく、「集団での獲得を個人内に残す」を大切にする必要があります。※教科、単元によって異なります。 ●「南中学びスタイル」を確立するためにも、ICT活用の推進に尽力ください。 ●　成果と課題、改善点の内容を具体的に示してください。
			②授業における「書くこと」の学習活動の実践	3.25	3.13	3.16						
			③「南中生徒会学力向上プラン」の取組と教科指導・学級指導の連動	2.69	2.53	2.69						
		(2)生きて働く力の育成【輝き合う夢】	④キャリアデザイン「夢実現」プログラムの推進におけるキャリア教育能力の育成	3.44	3.53	3.53					○④⑤外部講師により知識を広める機会となっている。掲示物の充実により生徒は学びを継続できる。 ④地域の人材活用を積極的に行うことができ、宇美町について深く考える機会となった。 ⑤夢実現講演会の学びをキャリアパスポートに記入させることができた。 ⑤ゆうあい学級で目標を表現させたり、料理についてプレゼンさせたり教科等の時間を活用できた。 ⑥特別活動と関連付け、集団の一員として自覚し行動する意識をもたせることができた。 ●⑥他教科と連携したキャリア教育による授業実践があまりできなかった。授業で自分の将来を考える機会が少ない。学力が低い生徒は、将来の目標が定められていないからである。 ⑥社会人としての必要な資質を自分のものにできるか課題。 ⑥キャリア教育の実践を２学期に取り入れたが、学校生活調査に反映していない。原因を追究する必要がある。	
			⑤夢や目標の自己表現機会の充実	3.44	3.47	3.47						
			⑥他教科等と連携するキャリア教育カリキュラム・マネジメントによる授業実践	3.06	3.13	3.13						
方策３	３　組織の機能化	(1)南中チＰＲＩＤＥチーム指導の充実	①目標の共有と協働性を発揮するチーム指導の充実	3.56	3.57	3.57	3.40	3.24	3.24	A	○②③教育相談委員会、サポート一覧を通して全生徒の状況を共有し、迅速に対応できている。 ②学校事故の場合、報告書を通して管理職に報告できている。共有化シートは各学年で活用できた。 ③地域からの通報や緊急事案に迅速に対応できた。学年チーフを中心に組織的な対応ができた。 ●①校務分掌や学年分掌、行事ごとの役割の認識が不十分で、何をすべきか、どこまで責任をもつのかが共有できなかった。事跡を参考に自分で考えて動く教員集団になるべきだと考える。 ①教育活動、内容の関連や、取組の価値の説明が不十分だった。教員の目的意識の差が大きかった。 ②業務に追われ、共有化シートによる報告・連絡・相談を徹底することができていない。どれだけどのように活用されているかが見えない。	○「一人一特別委員会」の取組は若い先生方一人一人が責任をもって、職務にあたる意識を育てることにつながります。 ●　組織よりも、教員一人一人の個としての成長を促すことが、重要だと考えます。 ●中堅、ベテラン教員の意見を取り入れて研修を進めてください。 ●　PTA連携「家庭教育3箇条」が特に低いことが気になりました。方策2と重複する部分がありますが、長期記憶における家庭学習の習慣化は保護者も生徒も必要性を理解しています。教科担任個々ではなく、全教員で共通理解し「何を」「どのように」「どれくらい」を明示する必要があります。 ●　先生方の人員確保が最重要課題です。PTA・保護者との連携を強化すべきです。
			②共有化シート活用による報告・連絡・相談の徹底	3.69	3.50	3.50						
			③チーム・迅速・適切な初期対応の徹底	3.63	3.50	3.50						
		(2)三者連携の協働活動の活性化【社会に開かれた教育活動の実践】	④地域連携触れあいと人材活用の場づくりの実践（学校行事・学校公開・CSサロン等）	3.25	3.00	3.08					○④⑤外部講師により知識を広める機会となっている。掲示物の充実により生徒は学びを継続できる。 ④地域の人材活用を積極的に行うことができ、宇美町について深く考える機会となった。 ⑤夢実現講演会の学びをキャリアパスポートに記入させることができた。 ⑤ゆうあい学級で目標を表現させたり、料理についてプレゼンさせたり教科等の時間を活用できた。 ⑥特別活動と関連付け、集団の一員として自覚し行動する意識をもたせることができた。 ●⑥他教科と連携したキャリア教育による授業実践があまりできなかった。授業で自分の将来を考える機会が少ない。学力が低い生徒は、将来の目標が定められていないからである。 ⑥社会人としての必要な資質を自分のものにできるか課題。 ⑥キャリア教育の実践を２学期に取り入れたが、学校生活調査に反映していない。原因を追究する必要がある。	
			⑤PTA連携「家庭教育３か条」の発信と浸透	2.88	2.57	2.46						
			⑥小中連携活動の充実（あいさつ運動、授業改善研修等）	3.38	3.29	3.31						
方策４	４　教職員の研修の充実	(1)マネジメントする職能向上システム	①ＱＵに学ぶルールとリレーションを確立する集団づくりの主体的な研鑽	3.56	3.33	3.33	3.39	3.32	3.32	A	○①webQUを活用することで、管理が便利になった。研修で生徒の実態把握の活用・共有が便利になった。 ②ICTを活用した授業、活用する教員が増え、授業実践ができている。毎学期１回実践している教員もいる。新しいアプリ「スクールタクト」を活用した実践が若手教員中心に広まっている。 ③各教科で評価を共有する研修が行われている。 ●②ICT活用は教員間の差が大きい。本校独自の研修もなくメリットとデメリットが共有できていない。	○「主体的で、対話的な、深い学び」を実現するための研修を充実させたいと思っています。R5の小中合同研修で取り組みたいと考えています。 ○　多方面から講師を招いた研修は有意義であったと思います。 ●　教科等の研修、キャリア教育の研修、一般研修（人権・同和、ICT活用、生徒指導、学級経営）、学年研修を町内の8小中学校、3中で共同実施した方が、活性化の面で効果があると考えます。オンラインでの実施も可能ですのでご検討ください。校内でしかできないものとそうでないものを適切に選別する必要があります。 ●　教職員の自信が生徒に伝わる まで、研修を充実させ、教職員の個としての職能向上を図る必要があります。 ●　webQ-Uの活用については、世代間格差が生じますので、若年教員の先生を積極的に活用してください。
			②ＩＣＴ活用の授業実践	3.19	3.47	3.47						
			③各評価物（生徒授業評価・学校評価等）の分析と改善を強化する検証改善サイクルの実践	3.31	3.13	3.13						
		(2)校内OJTの機能化	④職能及び指導力（教科・生徒）向上の育成ステージの研修機会の浸透と実践	3.50	3.33	3.33					○④指導力向上に向けた研修が行われている。また、研究推進部を中心に、充実した研修機会もある。 ④ベテラン教員から若年教員が教わる場面が増えた。できる職員が相互に教え合う場面が増えた。	
方策５	５　教育環境の充実	(1)良さを引き出す人的環境	①率先垂範、師弟同行するモデル環境づくりの実践	3.56	3.50	3.50	3.24	3.32	3.37	A	○①教員が模範となる姿を生徒に見せることができている。 ②③生徒会のスマイルフラワーチャレンジの取組が充実している。教員も連携して指導できた。 ②行事等でのふりかえりや教育相談などを適切に行い、生徒理解に努めた。生徒同士で互いに認め合える実践もできた。 ●③言語環境について、全校、各学年で取り組む必要がある。	○　掲示物の充実、校内の整理整頓等、落ち着いた環境づくりができていると感じました。 ○　日本人の美徳である目上の人、先生、両親を敬う心は、言葉に表れます。友人とともに尊敬し、大切にする心も同様です。美しい言語環境を大切にしてほしいです。 ●　教職員が生徒と本気で向き合えるような人間関係をつくることが環境整備です。 ●　働き方改革について自己評価が伸びているものの、指標に届いていない状況について、今のやり方を継続しつつ、更なる改善を期待します。業務負担を減らすには、削除、削減、合併、アウトソーシング、データ化が必要です。生徒・保護者への周知とともに、中間評価の結果や学校だよりを見て、人的環境の素晴らしさを感じます。先生方が一枚岩になって生徒を伸ばそうと日々努力されていること、ICTをはじめ機材や教具を用いて授業の工夫を行っていることが伝わります。
			②他者を理解する共感的人間関係づくりの実践	3.56	3.36	3.36						
			③他者を大切にする言語環境づくりの実践	3.44	3.21	3.21						
		(2)共生と安心の物的環境	④共に学び合う学びの環境づくり（学び合いの機会、環境整備、掲示物等による共有場面づくり等）	3.50	3.93	3.93					○④生徒が行事に取り組む様子や行事での成長、チームへの関わり等をまとめ、掲示することができている。 ④⑤特に、総合学習では各学年掲示物を作成し、生徒の様子がわかるようになっている。また、定期的に学年通信を通して学びを発信することができている。 ⑥ゆうあい学級では、なかよし交流会や収穫祭を通して仲間と協力させたり、他者との関わりを深めさせたりすることで、自己存在感を高める居場所づくりの実践とした。	
			⑤学びや夢の見える校内掲示物の更新及び情報発信の充実（各種通信、HP）	3.31	3.57	3.57						
			⑥自己存在感を生み出す居場所づくりの実践	3.38	3.36	3.36						
		(3)働き方改革を推進する職場環境	⑦意識改革を推進する目標退校時間の設定やフレッシュ退校の実践	2.63	3.00	3.23					○⑦⑧会議を通して業務改善に向けた取組が進められた。部活動の短縮で退校時間が早まった。 ●⑦仕事量の偏りがあり、定時退校できていない状況がある。また、業務の煩雑さが全く改善されていない。担任の負担が大きい。 ⑦取組の縮減や削減は。教育的効果や価値の面で判断するべき。教師の問題ですべきではない。	
			⑧業務改善の具体的取組の推進（会議の縮減、文書等のＩＣＴ化、事績データ活用による効率化）	2.50	2.64	2.77						
指導の基盤	６　率先垂範師弟同行	モデル化の協働実践の徹底	①積極的生徒指導「鍛えて！ほめて！励まして」の指導の実践	3.56	3.36	3.31	3.48	3.34	3.22	A	○①スライドを活用して生徒の成長を視覚的に実感させ、積極的生徒指導につなげることができた。 ①生徒の頑張りを積極的に認め、賞賛できた。また、指導の場面では、職員が協働して生徒指導を行ったり、学年集会で指導を行ったりするなど、適切且つ迅速に対応することができた。 ④授業前のチャイム席や、集会時の集合状況から時間を守ることを学校全体に浸透できた。 ●②あいさつ四箇条が設定されているが、それに対しての呼びかけや指導がないのが気になります。 ③黙働掃除が十分に取り組めていない状況がある。	○　不登校生が減少していることが素晴らしいです。糟屋区の小中学校では増加している中、宇美南中学校区2校は踏ん張っていると思います。 ○　スライドを使って日頃の姿をふり返らせ、教師から評価する効果が上げられている一方で、自己評価が低下しています。「鍛える」「ほめる」「励ます」の意味を今一度共通理解する必要があります。効果がある取組を実践している教員から、提案させる等工夫してください。 ○　あいさつができていない人は何事においても積極的に行動できません。コミュニケーション手段として何よりも簡単で、誰にでもできる手段です。大きな声でのあいさつの指導を徹底してください。 ○　学習環境、生徒の学習態度を見て、教科指導、生徒指導等多くの業務がある中で、日頃の取組がしっかりなされていると感じました。 ●　重点課題を具体的に定め、現在のように取り組んでいただきたいと思いました。
			②あいさつ四箇条の実践	3.31	2.93	3.00						
			③黙働掃除四箇条の実践	3.56	3.43	3.23						
			④時間の指導（時間を守る・時間を使う・時間を見通す）の実践	3.50	3.64	3.33						
危機管理	７　社会性	(1)不祥事防止	①南中不祥事防止プランに基づく当事者意識の不祥事防止の徹底	3.94	4.00	3.92	3.88	3.97	3.92	A	○①定期的な南中コンプライアンスDAYを通して、職員全体で不祥事防止について考える機会が設定されている。様々な事例の紹介を通して不祥事防止の意識を高めることができた。 出張前、出張後には職員の呼気検査を行い、不祥事発生を防止に努めている。 ○②感染症の状況や行事に合わせて、感染症対策を確認する場が設けられたことで、換気や手指消毒などを徹底できた。養護教諭や健康委員会の換気や手指消毒の呼びかけによって、生徒自身が対策を行う姿が見られた。	
		(2)新しい生活様式	②新型感染症に係る新しい生活様式の自らの実践と指導の徹底	3.81	3.93	3.92						